

- 2面 以東沖合底曳網漁船出港〈九州関門〉
以西底曳網漁船出港〈長崎〉
- 3面 各地で海員スポーツイベント
- 4面 伊勢湾発見ツアー〈名古屋〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <http://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行第3064号(昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2024年(令和6年)
9月15日
本紙は毎月5・15・25日発行
〒104-0053 東京都中央区
晴海4丁目7番28号
ホテルマリナーズコート東京内
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-5410-8337
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

令和6年度から

高知県・宿毛市

船員の住民税減免実施



宿毛市の中平富宏市長



船員税制7番目の自治体

高知県・宿毛市は四国の西南端に位置し、西には高知県唯一の有人離島沖の島、鵜来島がある。地形は全般的に山岳・丘陵地帯で構成され、気候は、四季を通じて温暖で、足摺宇和海国立公園に属する豊かな自然に恵まれている。沖の島、鵜来島は日本有数の磯釣りのメッカとして多くの釣り客を魅了し、近年は日本屈指の透明度を誇る海として、ダイビングスポットとして注目を集めた。また、気象条件が整った冬の日には、夕日が宿毛湾に沈むときにだるまのように見える「だるま夕日」を見ることが出来る。この宿毛市で、令和6年度から、船員への住民税の減免(個人市民税均等割りの2分の1)が実施されることとなった。

宿毛市の 中平富宏市長のコメント

四国の西南端に位置する宿毛市は古くから漁業が主要産業となっており、重要港湾に指定されている宿毛湾は、四国西南部における物流や防災の拠点となっており、海との深い関わりを持つ中で発展してきました。

そのような本市にとって、長期間にわたる船上での勤務により行政サービスの享受が制限される市民の方に対して、令和6年より個人住民税の減免を開始しました。今後も市民の皆さまが抱えるさまざまな実情を踏まえながら、行政として必要な事を検討してまいります。

船員税制

船員は、家族や陸上社会と離れ、職住一体となった特殊な労働環境の下にあり、行政サービスの受益が一定程度制限されている。

船員の住民税については、2012年度(平成24年度)の国土交通省税制改正要望の審議の中で、総務大臣政務官より各自治体の裁量による減免が可能であることが示された。これを踏まえ、これまでに三重県の四日市市・鳥羽市・志摩市、静岡県の焼津市、愛媛県の今治市・越智郡上島

船員税制を実施している自治体

三重県	四日市市	2014年度～
	鳥羽市	2016年度～
静岡県	志摩市	2020年度～
	焼津市	2020年度～
愛媛県	今治市	2021年度～
	越智郡上島町	2022年度～
高知県	宿毛市	2024年度～

町の6自治体が個人住民税均等割りの2分の1を減免する措置を実施しており、宿毛市は7番目の自治体となる。本組合は、海洋国家日本における船員の政策減税(所得税減免)の早期実現に向け、海事振興連盟をはじめとする関係団体や関係議員と連携し取り組んでいる。また、組合政治参与との連携の下、住民税の減免措置を組合員に影響の大きい自治体を中心に拡大すべく取り組んでいる。

花咲港・気仙沼港・小名浜港

秋の味覚・サンマの豊漁を期待し サンマ棒受け網漁船が各港から出漁



「第88盛勝丸」乗組員の皆さん

8月10日、根室船団は花咲港から船主、家族、関係者が見守る中、出漁前のお祓い、お清め式を執り行い、海上安全と豊漁満足を祈願された。出港時には各船が、見送りに来た人たちの期待に応えるように大漁旗をなびかせ、出漁を盛り上げる演歌をスピーカーから響かせて出港した。

道東支部



8月10日のサンマ漁解禁に合わせて8月7日、福島県いわき市小名浜港から北海道に向け、サンマ棒受け網漁船福島船団が出港した。見送りに、航海の安全や大漁を願う大勢の家族や友人、漁業関係者が駆け付け、船団は汽笛の音を合図に、大漁旗をなびかせて出港した。

小名浜支部



8月8日、気仙沼港からサンマ棒受け網漁船が道東へ向け出港した。出漁式には豊漁を願い、乗組員の家族や関係者約500人が駆け付けた。菅原茂気仙沼市長から激励のあいさつがあり、船団を代表し「第81豊清丸」の中龍捷夫漁労長が「サンマで気仙沼に活気を戻したい」と述べた。

気仙沼支部



以東沖合底曳網漁船 12隻が出港

全国発信記事

九州関門
地方支部
= 発信

8月15日、下関漁港を拠点とする以東沖合底曳網漁船12隻が漁の解禁日である16日までに一斉出港した。船団出港に先立ち、航海の安全と大漁を祈願する出港式が開催され、乗組員の家族や友人をはじめ、漁業関係者が出席し、鏡割りや大漁三唱、散餅式が行われ、出港式を盛り上げた。

出港時は、下関市役所吹奏楽団による演奏の中、大漁旗を掲げた漁船が、家族や漁業関係者に見守られながら、一斉に汽笛を鳴らして、大海原に船を繰り出した。

船は見島沖合から長崎県対馬周辺までの海域で来年5月末まで操業し、下関漁港が水揚げ日本一を誇るアンコウをはじめ、アカムツ、カレイ、ヒラメ、タイなどを漁獲する。



以西底曳網漁船 大漁目指し出港

全国発信記事

長崎支部
= 発信

快晴に恵まれた8月17日、山田水産株式会社と長運水産株式会社所属する以西底曳網漁船団が操業に向け、新長崎漁港を出港した。

以西底曳網漁船は、大正時代の創業時からこれまで、日本人の食文化・食卓を支えてきた。近年は、貴重な漁獲物の鮮度を保つため、漁獲後は速やかに冷水に浸ける予冷作業を行い、最適な温度に保たれた魚船にシフト、早急に操業を繰り上げて水揚げすることで、高鮮度かつ高品質なレンコダイやアカムツなどの魚介類を消費者へ届けている。

出港時間になると、岸壁には見送りに来た家族や漁業関係者が集まり、船の安全運航と大漁を願い、大きく手を振って「行ってらっしゃい」と声を響かせた。

全国各地で 海の日式典・表彰



道東支部 2 発信
根室港海の日の会が7月18日開催され、第88盛勝丸(株式会社盛勝水産)の長野重巳漁労長が、会長表彰を受賞した。

乗船期間54年の貢献に際し、根室船頭会から推薦されたもので、表彰式当日は大型サンマ根室船団の会議があり、長野さんは出席できなかったが「これまで仕事に従事できたのも諸先輩方、同僚後輩、多くの関係者のご指導と家族の理解があったからこそ。心から感謝申し上げます。これからもサンマ漁業の発展に貢献したい」と、受賞への感謝と力強い気持ちで述べられた。

鹿児島支部 2 発信
7月24日「海の日」海事功労者表彰式が開催され、鹿児島県内では27人と2団体が表彰され、国土交通大臣表彰優良船員をマリックスライン株式会社の徳永広秋甲板長、九州運輸局長表彰優良船員をマルエフェリー株式会社の中島利英船長が受賞した。

受賞者からは「大変名誉ある表彰を受け光栄。今後も船員の模範となるように日々の職務ならびに、安全運航・作業に努めていきたい」とお礼の言葉が述べられた。

九州支部 2 発信
7月15日に開催され、海事功労者として国道九四フェリー株式会社の内藤雄策機関長と清水勝明主任の2人が表彰された。

福岡・海の日式典
7月16日、博多港の海事関係者の慰霊祭が行われた後、

九州支部 2 発信
7月19日、下関金羅羅宮で、航海安全・大漁祈願祭、殉職船員慰霊祭を執り行った後、亀山八幡宮儀式殿で、海の日記念式典と魚霊慰霊祭が開催された。

記念式典では、関釜フェリー株式会社の伴優樹一等航海士、西部タンカー株式会社酒井秀次機関長、高濱裕二機関長の3人が表彰された。

また、住成信九州関門地方支部副支部長が「海の恩恵に感謝するとともに本日表彰された皆さまにお祝い申し上げます。更なる海事産業の発展と海事思想の普及のため、関係者皆さまのご尽力を賜うようお願いし、航行安全と皆さまのご健勝を祈念する」と祝辞を述べた。

海の日式典と海事功労者の表彰式が行われ、九州郵船株式会社の山内和久機関長・山内哲治機関長の2人が表彰された。

宇部市・海の日記念式典
7月16日に開催され、漢那太作九州関門地方支部長が出席し「海の恩恵に感謝するとともに表彰された皆さまに対し、お祝いを申し上げます。船員は、家族と離れ、自然環境の中で、日夜安全運航に努めており、そこで働く船員の必要性と役割は計り知れないことを再認識し、敬意を表していただきます。最後に船舶の安全運航と皆さまのご健勝を祈念する」と祝辞を述べた。

北九州・海の日式典
7月17日に開催され、九州運輸局長表彰に若鶴海運株式会社の山田孝仁船長が表彰された。

海員スポーツイベント

スポーツの秋🍁各地でボウリング



ゲーム白熱、 2ゲーム トータルで 競う

全国発信記事

道南支部
= 発信

8月4日、海員ボウリング大会をボウルサンシャイン函館で開催し、組合員と家族計28人が参加した。はじめに松本順一北海道地方支部長兼道南支部長から主催者あいさつがあり、組合員家族の山崎恵美ちゃんの始球式で競技がスタートした。
約2時間のスポーツイベントは盛り上がりを見せ、各レーンで歓声が上がると、あっという間にゲーム終了となり、結果は2ゲームトータル329ピンで、ハートランドフェリーの岩館大稀さんが優勝、2位は津軽海峡フェリーの浅野允玲さん、3位は同じく津軽海峡フェリーの山崎圭一さん。表彰式は参加者の温かい拍手で会場が包まれ、来年のイベントにも多くの参加を願って終了した。



来年も 参加したい、 組合員の声 多数

全国発信記事

八戸支部
= 発信

8月6日、八戸市のゆりの木ボウルで沖合底曳網漁船組合員を対象としたボウリング大会を開催し、組合員33人が参加した。はじめに甲斐忠行八戸支部長からあいさつとルール説明の後、ゲームを開始した。
ゲームは和やかな雰囲気で行われ、ストライクやスペアなどをとった時には各レーンから大きな歓声が上がって、盛り上がった。
結果は、福島漁業「第68惣寶丸」の瀬田石武さんがトータル368ピンで見事優勝を飾った。組合員から「海員組合主催のボウリング大会やイベントは、来年も参加したい」などの声が多く聞かれ、八戸地区で初めて開催したボウリング大会は、無事に終了した。



会社の垣根を越え スポーツで 交流

全国発信記事

中・四国
地方支部
= 発信

7月19日、広島市中区の広電ボウルで海員スポーツイベントボウリング大会を開催し、現場組合員と家族24人が参加した。はじめに岡本裕二中・四国地方支部副支部長のあいさつとルール説明があり、ゲーム開始に当たり組合員家族の木原万結ちゃん(4歳)をはじめ、各レーンの代表者が始球式を行った後、2ゲームのトータルスコアでの競技が始まった。
参加者は、和気あいあいとした雰囲気の中で、各人各様に楽しむ姿が見られ、会社の垣根を越えて交流を深めた。
ゲーム終了後は表彰式を行い、優勝者を参加者全員の拍手でたたえた。最後に中国海事広報協会の板敷剛事務局長から閉会のあいさつが行われ、大会は成功裏に終了した。



ジャンケン 大会も 盛り上がる

全国発信記事

沖縄支部
= 発信

8月9日、那覇市波之上のサラダボウルで、海員ボウリング大会を開催し、組合員と家族のほか、海事関係者など70人が参加した。はじめに、柴田哲也沖縄支部長から「皆さまの交流の場として、大いに盛り上がりつつ楽しんでほしい」とのあいさつがあり、各レーンで熱戦が始まった。沖縄県は、ボウリングが盛んに生まれ、個人レベルも高い。家族で賑やかにゲームを楽しむチームなど、終始和やかにゲームは進行した。
優勝は共和マリン・サービスの上間恒天さんで、2ゲーム合計436ピンのハイスコア。また、ジャンケン大会も盛り上がり、参加者全員が各社から協賛いただいた商品がゲットすることができ、楽しいボウリング大会となった。



知多丸

第17回 伊勢湾発見ツアー 216人が知多丸で航海体験

全国発信記事

名古屋
支部
= 発信

海から陸を眺め、 船と港の役割を学ぶ



受付のようす



中日海洋少年団が手旗信号を実演



乗船中



救命胴衣の着用



名古屋港ガーデンふ頭



南極観測船「ふじ」

天候に恵まれ、遠くに入道雲が見える8月23日、中部海事広報協会および日本モーターボート競走会主催の「第17回伊勢湾発見ツアー」が名古屋港で開催された。公募抽選で当選した小中学生と保護者216人は、伊勢湾フェリー所有船舶「知多丸」に乗船し、名古屋港ガーデンふ頭から、中部国際空港付近を周遊する3時間の船旅を楽しんだ。

乗船セレモニー冒頭、中部海事広報協会の市川良文事務局長から「中部地方を中心とした多数の応募に感謝する。この発見ツアーで船や海に興味を持ち、港湾施設などを学んで楽しんでいただきたい」とあいさつがあり、離岸作業時は、ナゴヤシップサービスの無駄のない網外し作業や、補助推進器(スラスト)の力で船体が横移動するようすに子どもたちは興味津々で、普段見ることができない場面

に歓声が上がった。救命胴衣試着体験では、実際に船に備えられている救命胴衣を着られるということもあり、子どもたちははわくわくしながら試着し、また、海上保安庁の職員と写真撮影を行う家族も多かった。大人気のブリッジ見学では、船長の操舵号令に対して、甲板手が素早く対応する光景に、子どもたちが拍手喝采。船長から船のドックに入渠中の船体の写真や、プロペラなどの船体構造について説明があり、子どもだけでなく保護者も関心を示していた。また、中日海洋少年団の少女が手旗信号を実演披露したほか、手旗信号のクイズも行われ、大いに盛り上がった。

知多丸で中部国際空港付近を見学し、約3時間の周遊後、名古屋港ガーデンふ頭へ帰港・着岸した。陸上で経験できない体験をした参加者は笑顔で下船し、第17回伊勢湾発見ツアーを終えた。

名古屋港海上交通センターは1997年4月に設置され、入出港船舶に対し、港内および周辺部の気象情報や交通情報を提供し、管制水路において管制業務を行っている。名古屋港は横浜港と並ぶ日本最大級の貿易港で、ガーデンふ頭周辺を地元では「名古屋港」と呼んでおり、かつて南極探検で活躍した南極観測船「ふじ」が係留され、庭園には忠実な働き者だった調査犬のタロ、シロの像がある。このほかにも、名古屋港水族館や名古屋港ポートビル、名古屋海洋博物館など見どころも多い。

また、名古屋港から少し離れたところには日本三大神宮のひとつ熱田神宮、そして金鯱城の異名を持つ名古屋城など、歴史ある数々の名勝もある。ぜひ訪れてほしい。



名古屋港海上交通センター



名古屋城